

経営比較分析表（平成28年度決算）

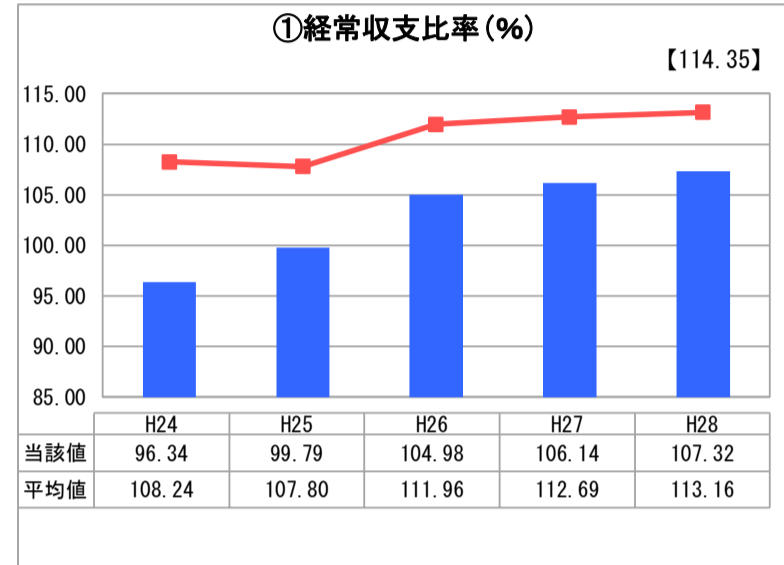
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.59	100.00	2,484	

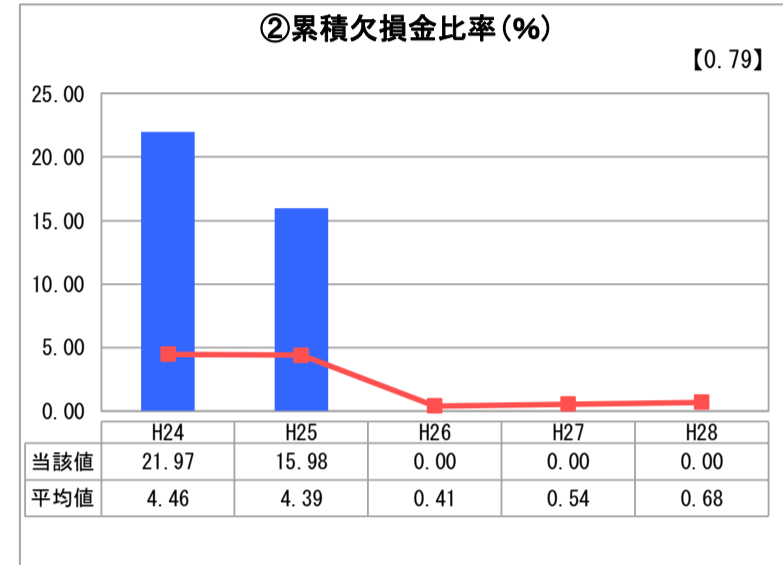
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
96,246	18.47	5,210.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
94,474	11.93	7,919.03

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

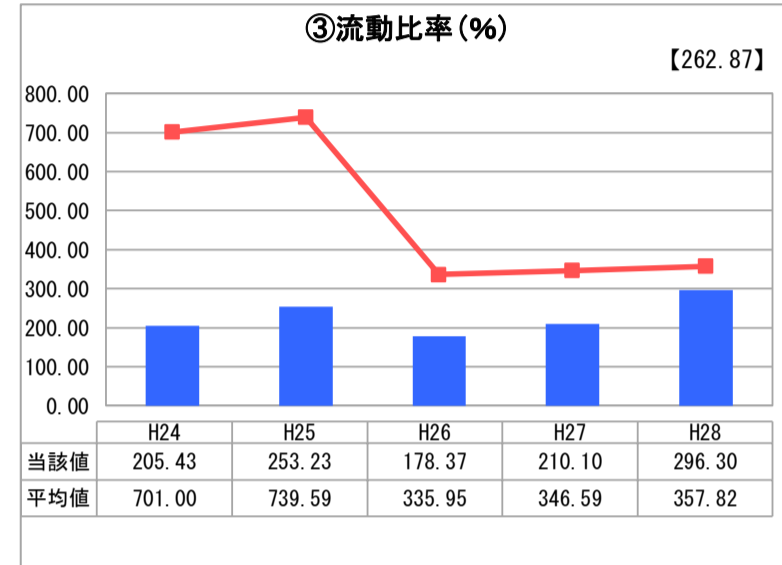
1. 経営の健全性・効率性



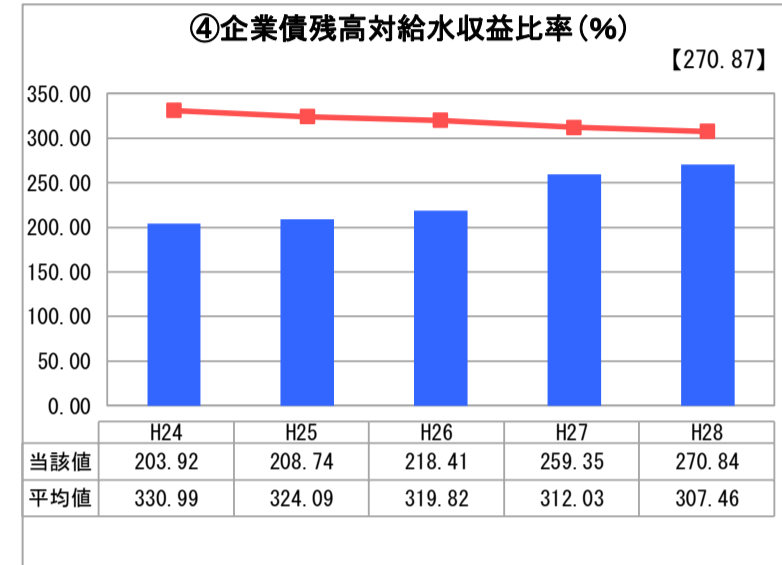
「経常損益」



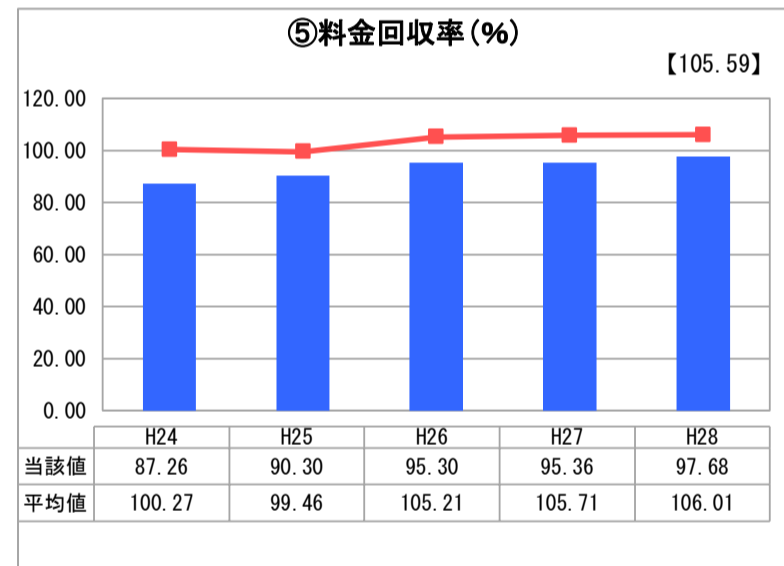
「累積欠損」



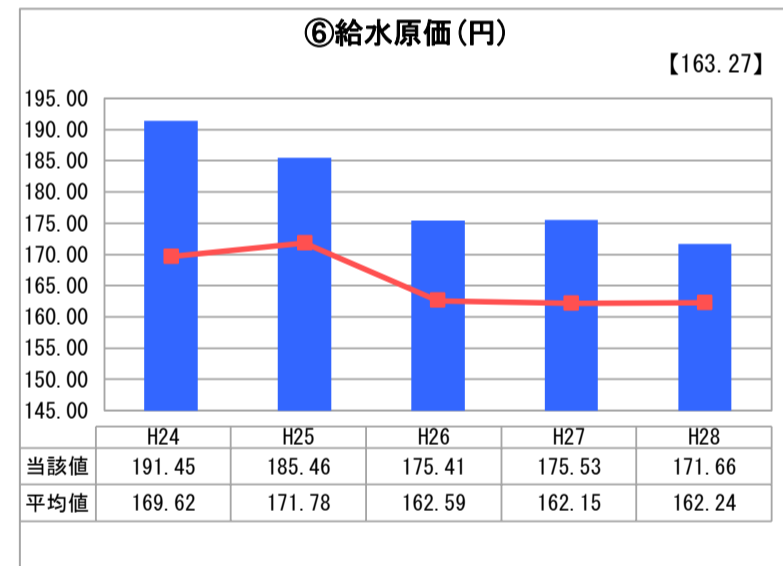
「支払能力」



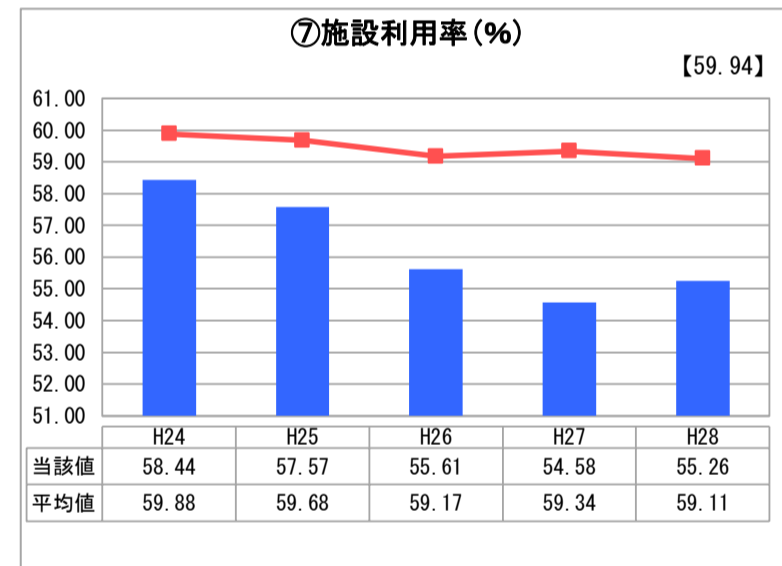
「債務残高」



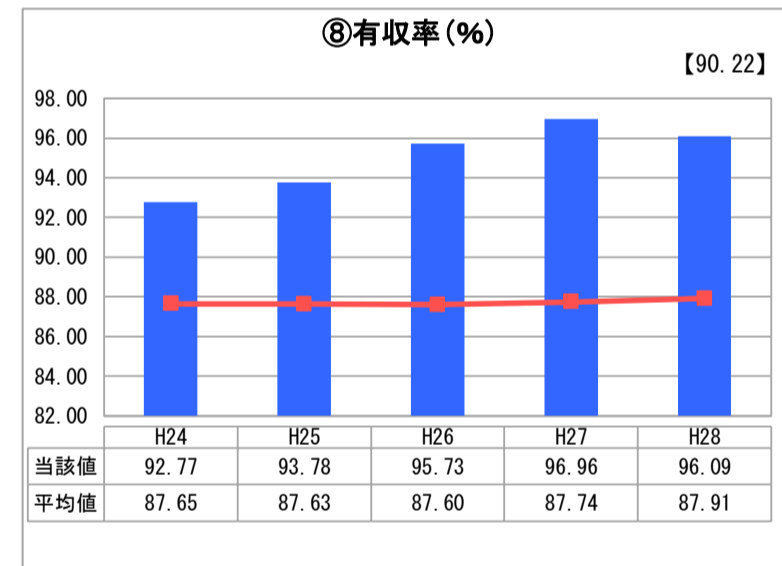
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

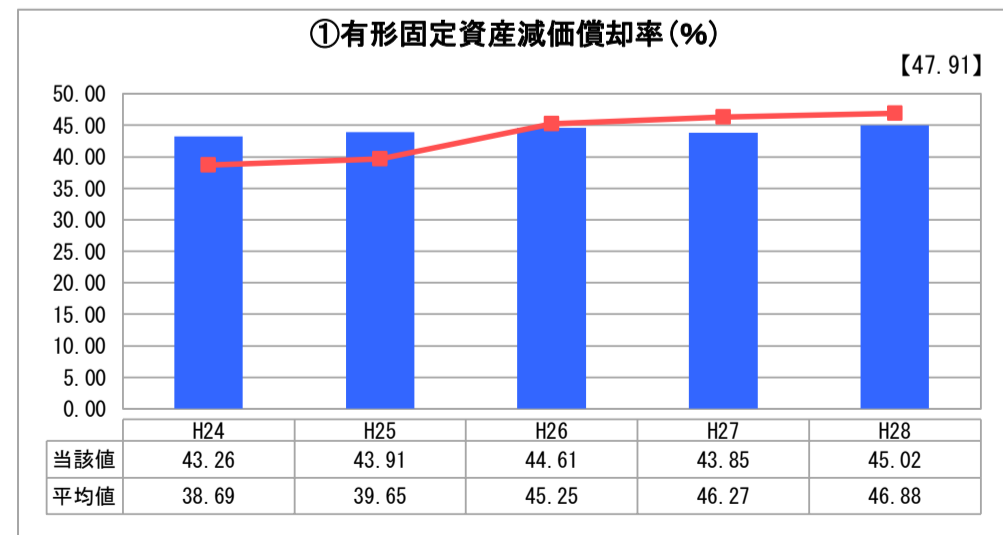


「施設の効率性」

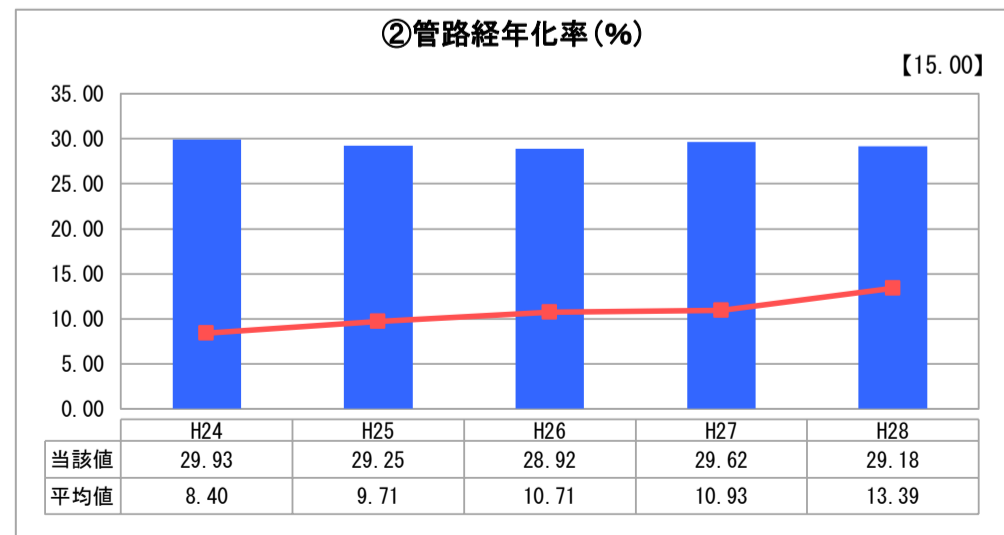


「供給した配水量の効率性」

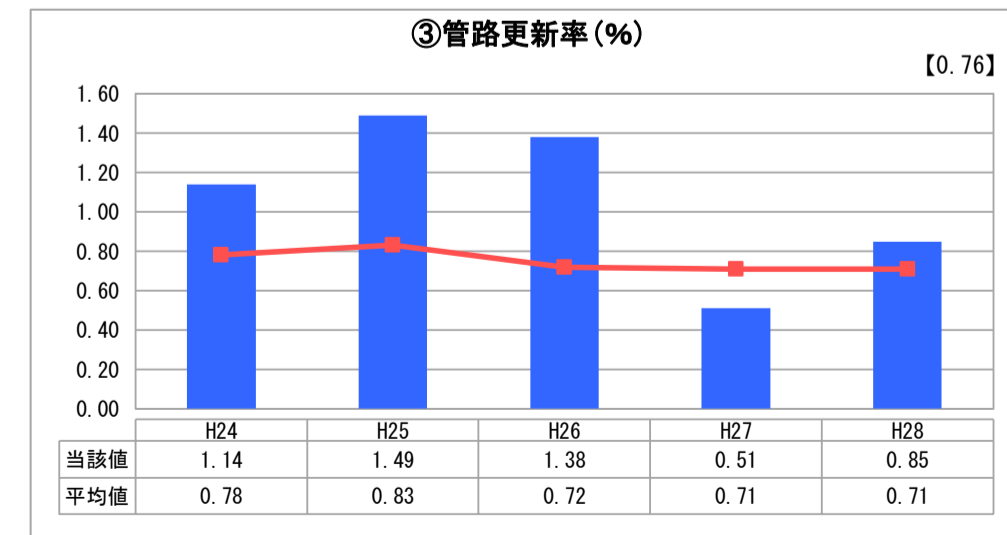
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

芦屋市の水道事業は、高度成長期頃に大規模な施設整備により、右肩上がり増加が見込まれた需要に備えたが、阪神・淡路大震災を契機に節水型のライフスタイルが定着し、現在では有収水量は減少傾向にある。また、商業・業務施設が少ないことから大口の利用者も他団体と比較して少ないのが特徴である。

現在は当時投資した老朽管や施設の更新時期となっており、減価償却費相当額を計画的に投資している。有収率については、引き続き効率的な投資・維持保守に努め、全国平均を上回っている。

経営面においては、有収水量が減少するなか、事業内容の見直しや経営の効率化を図り、経常収支比率や料金回収率が徐々に改善している。

料金回収率が100%未満でありながら純利益が発生しているのは、特別利益（兵庫県住宅供給公社からの水利負担金収入等）によるものである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率や管路経年化率が示すように、昭和初期から高度経済成長期にかけて集中して投資した管路・施設の更新時期を迎えている。

更新にあたっては、整備計画や財政計画を作成し、優先順位を決め、計画的に投資を行っていく。

また、耐震性及び耐久性に優れた管路を使用して管路の更新を行い、管路経年化率及び管路更新率の改善を目指す。

全体総括

今後も有収水量が一定量まで減少が見込まれる中、老朽化した管路・施設の更新は、「芦屋市水道事業水道ビジョン」などにより長期的計画で行う必要がある。

業務の見直しや経営の効率化を進めながら、料金回収率の改善を図る必要がある。

また、水道事業に対する利用者の関心を高め、理解を深めていただくためにも、分かりやすい情報提供を機会を捉え積極的に行っていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。